

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	脱臼整復学（下肢）	
科目基礎情報							
開設学科	柔道整復科		コース名			開設期	後期
対象年次	3年次		科目区分	必修		時間数	15時間
単位数	1単位		授業形態	講義			
教科書/教材	教科書（柔道整復理論編・実技編 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修一）に準拠する。						
担当教員情報							
担当教員	有山 敦士			実務経験の有無・職種	有（柔道整復師）		
学習目的							
学生が柔道整復師の業務である下肢の脱臼について知り、理解できるようになることを目的とする。主に股関節脱臼・膝蓋骨脱臼・膝関節脱臼・足部の脱臼を主体に学び、臨床現場で判断と対応するために、発生機序、症状、合併症・続発症・後遺症、整復方法、固定法を学び他の外傷と鑑別する能力を養う。これからの高齢化において多く発生する下肢の骨折なども踏まえどのように対応していくか、また患者への対応と注意点を学ぶことが必要である。							
到達目標							
学生が柔道整復師として臨床現場で遭遇する下肢の脱臼を中心として学ぶ。また認定実技審査を踏まえ肩鎖関節上方脱臼、肩関節前方脱臼、肘関節後方脱臼、肘内障の診察手順と整復操作法を学習する。固定方法としてPIP関節背側脱臼、肘関節後方脱臼、肩関節前方脱臼、肩鎖関節上方脱臼について固定材料、肢位、期間を理解し実践する。国家試験に向けての脱臼の総括も行い合格に向けてより学んでいく。							
教育方法等							
授業概要	座学および実技が中心となって行われる。実技ではグループを作成し、牽引のかかり方、方向性などを感じてディスカッションしながらより良いものにしていく。座学では発生機序、症状、合併症、後遺症、続発症、整復方法、固定法及び期間を学び理解するとともに、国家試験にも対応する授業にしていく。						
注意点	医療人としての資質をはぐくむため受講態度や私語などは厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めないと共に、公共交通機関の遅延等が予測される場合はそれに対応できるようにすること。1年生からの継続した内容が必要となるため、骨折・軟部組織損傷などの他教科も合わせた予習・復習が必要である。授業時数の4分の3以上出席しないものは定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	100%	試験にて評価する				
	小テスト	0%					
	レポート	0%					
	成果発表 （口頭・実技）	0%					
	平常点	0%					
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	認定実技試験対策①			肩鎖関節上方脱臼の診察および整復法、固定法を理解する。			
2回	認定実技試験対策②			肩関節前方脱臼の診察および整復法、固定法を理解する。			
3回	認定実技試験対策③			肘関節後方脱臼の診察および整復法、固定法を理解する。			
4回	認定実技試験対策④			肘内障の診察および整復法、PIP関節背側脱臼の固定法を理解する。			
5回	膝蓋骨脱臼			先天的要因・発育上の問題を学び、外側脱臼の発生を理解する。			
6回	膝関節脱臼			膝窩動脈損傷の合併における下腿壊死の可能性を理解する。			
7回	足部の脱臼			リスフラン関節脱臼における第2中足骨基底部骨折の理解と、足趾の脱臼を理解する。			
8回	7週までの振り返りと確認演習			1週から7週までの知識が蓄積されているか確認する。			
9回	国家試験対策授業①			関節損傷、脱臼総論、顎関節脱臼の問題を解き、理解度を確認する。			
10回	国家試験対策授業②			鎖骨の脱臼、肩関節脱臼の問題を解き、理解度を確認する。			
11回	国家試験対策授業③			肘関節脱臼、手指部の脱臼の問題を解き、理解度を確認する。			
12回	国家試験対策授業④			股関節脱臼、膝蓋骨脱臼の問題を解き、理解度を確認する。			
13回	国家試験対策授業⑤			膝関節脱臼、足部の脱臼の問題を解き、理解度を確認する。			
14回	13週までの振り返りと確認演習			9週から13週までの知識が蓄積されているか確認する。			
15回	まとめ			後期全体のまとめ			